

## 6. 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島とならんで温暖な地方である。しかし両総台地は内陸性気候で寒暖の差はやや大きく、反対に太平洋岸及び内湾沿岸は海洋性の気候で比較的暖かい。

雨量は地域により差はあるが、房総丘陵の南側が多く、北西部は少ない。特に内湾沿岸は本県でも最も雨量の少ない地域である。

平成2年の気象の特記事項は次のとおりである。

4月22日、山武郡九十九里町の片貝海岸沖合で、11人が乗り込んだモーターボートが横波を受けて転覆、6名が死亡、1名が行方不明となった。

7月18日の梅雨明け後、19日はフェーン現象による昇温効果が働き、また、停滞していた前線に湿った気流が流れ込んだため、佐原市で36.4℃を記録するなど、県内の大部分で猛暑となった。

8月から9月にかけては、台風11・19・20号により重軽傷者が出たほか、住家・道路の損壊、農業被害が発生した。

12月11日午後から夜にかけては、大気の状態が不安定となり、発達した積乱雲群が千葉県を通過する際、竜巻・突風・ひょう・落雷等を伴い、各地に甚大な被害をもたらした。

